



なないろ

「大工の技術取得法」に学ぶ

(幸せをめざして PART 44)

所長 小野 真

“だいぶみさん”という愛称で多くの方々から親しまれている「学者棟梁」の異名を持つ大工棟梁、田中文男さんをご紹介します。田中氏は多くの木造建築技術の後継者を育てたことで知られています。彼は人材育成の柱として、「大工の技術取得法」を大きく3つに分けています。

1つ目は「慣れて身に付ける」、いろいろな道具を自分の手足として使いこなすことです。

2つ目は「教えてもらって覚える」、修行期間中に親方や兄弟子から大工になるための常識を教えてもらうことです。具体的な技術ではなく、「人に笑われるな」「人の迷惑になるな」「人にやってもらいたくないことは死んでもやるな」など、職人としてやってはいけないタブーを教えるのです。

3つ目は「習って高める：死ぬまで勉強」、大工の仕事は日々変わっていきます。客層、材料、流通、仕事の内容もどんどん変わります。親方に叱られながら必死で覚えたことでも、10年経つと使えなくなることもあります。職人技が必要だとされても、一生安定した生活が約束されるわけではありません。したがって、常に「習って高める」ことがその後の収入に比例し、一生勉強し続けることが重要です。

これらの教えは、虹の家の利用者の皆さんにも職員にも通じることではないでしょうか。

「習って高める」という姿勢から、新しい作業の依頼が月に2~3種類あることがあります。その都度、製品に合わせて作業内容を確実に理解し、繰り返し練習して製品を確実に仕上げなければなりません。職員は利用者が作業内容を理解しやすい環境を整え、様々な支援を開発する必要があります。

大事なことは、利用者も職員も常に学び続けなければならないということです。利用者は作業を覚える際に、教えられたことを覚えるだけでなく、自分で工夫して習得していくことを目指します。そして、虹の家の職員は、利用者の目標を達成するための支援について学ぶことをやめたとき、利用者の前に立って支援する資格がないことを自覚しています。

新任職員を紹介します!

天井敏明支援員(1組e班)

松浦彩子支援員1組b班



よろしく
お願いします!!